

教育界の至宝

小原国芳(玉川学園大学長)招聘

記念講演実現

岩室中学校統合校舎竣工記念事業の一環として、郷土間瀬出身の先哲「本間俊平翁」の懿徳顯彰と新校舎の真教育への画龍点睛の意味で世界教育史上に永生され

る、玉川学園玉川大学長、

小原国芳先生を聘しての講演会が七月中旬

に石瀬本間八十太郎、和納

田久平の両氏の奔走によ

りて実現の運びとなつた。

主催、岩室村、教育委員会

協議、中学PTA、中学校後援会、村内小PTA、外村内各団体、玉川大学同窓会、在学生父兄会、郡同PTA連合会、郡内高等学校で郡内から大半数の聴衆が集まるところ期待されている。教育と産業を村はして、県下の雄村たるべく運営されている。我が岩室村が一億五千万円の巨費を投じて届指の真善と眞美の統合でいることはできない。設の際特別負担経費を自分で納得のいく面で徹底的に行なうにやらずにおれない性質である。明治、大正の先輩たちの互尊翁が一人一人も人でも平等に愛し、秋吉台の聖者として、愛の権化となるべきものであった。そしてどんな人が見えたこと、自分の納得のいく面で徹底的に行なうにやらずにおれない性質のが現状です。そこでこの部屋等が、体となって、昨年五月以降、電々公社に対して、早期架設について、強く要望、陳情を続けてきました。その結果待望久しきかづくりの提唱、このことは主として一貫された。戦後小原先生が五〇年前から呼んで、郷土間瀬に帰郷し、「間瀬復

た。

日本で頭の下る人物が二

人いる。その一人は吉田松陰、

そして郷土間瀬の生んだ秋吉台の聖者、本間俊平

であると言つておられる。

著書は多く、全国的に多く

の愛読者を得ている。それ

ゆえに本間俊平の名前は郷

土の人より、異郷の人々

理解され、尊敬の的となつ

ている。本間俊平は明治六

年、間瀬高屋に生まれ、近

所の人達に「お順(母親)

が死んだら

かわいいがる半分もか

いのがねば石で人間にかな

る」と言われるほど母親の

心地よさがわざわざ

寄生虫集団駆虫午後一時半~二時半

農村保健第一次検診午前十時~十二時

寄生虫集団駆虫九時半~一時半

反注射二時半~三時

反注射二時半~三時

BCG予防接種二時半~三時

BCG予防接種二時半~三時

不用大引取午前10時迄

不用大引取午前10時迄